

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

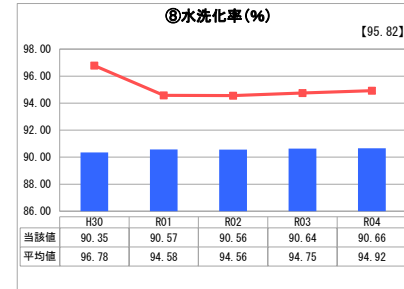
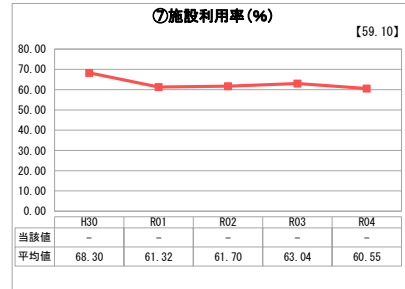
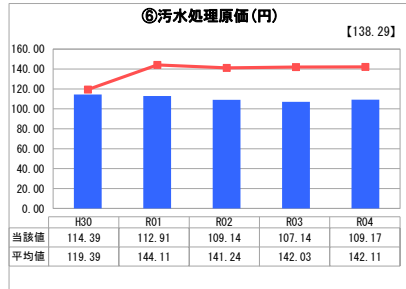
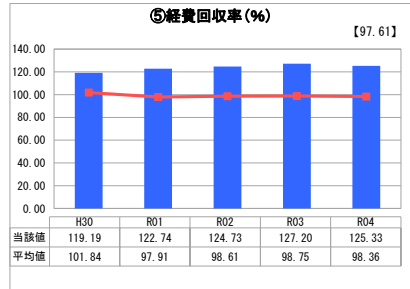
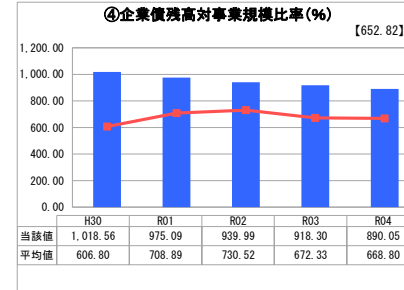
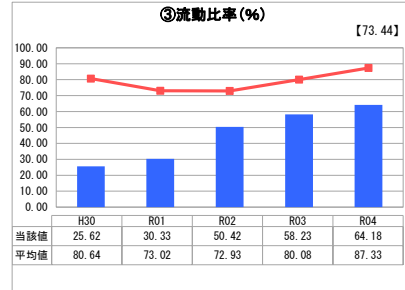
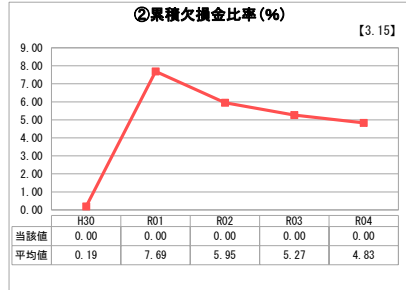
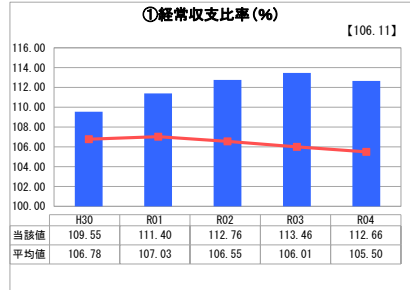
大阪府 和泉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	66.14	89.04	87.82	2,530

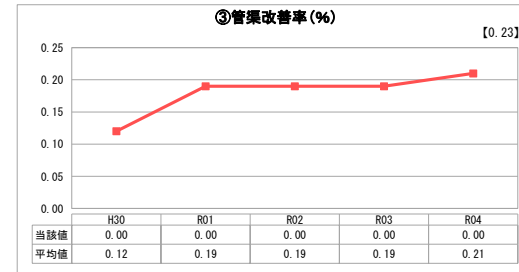
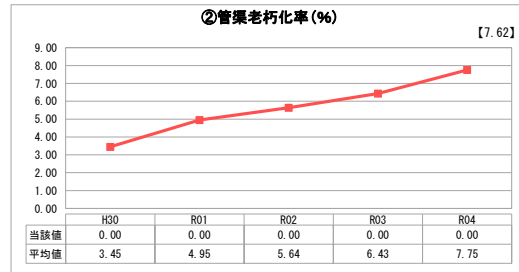
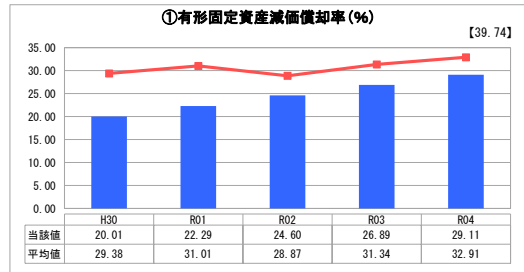
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
183,761	84.98	2,162.40
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
163,136	22.23	7,338.55

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、平成30年度に下水道使用料の改定を行って以来大きく上昇し、類似団体平均値(以下、平均値)より高く、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっており、健全な経営状態を維持しています。

② 累積欠損金は発生していません。

③ 流動比率については、年々改善しているものの、平均値と比べて低くなっており、安定運営できるほどの資金はまだ確保できていない状況です。

④ 企業債残高対事業規模比率は減少傾向にあるものの、平均値を上回っており、類似団体より企業債による経営圧迫の影響が大きくなっています。

⑤ 経費回収率は100%を越えており、汚水処理に係る費用を下水道使用料で賄えています。

⑥ 汚水処理原価は、有収水量、汚水処理費が増加したことにより、前年度との比較で上昇しましたが、平均値を下回っています。

⑦ 施設利用率は、汚水処理施設等を保有していないため発生しません。

⑧ 水洗化率は、水洗化啓発活動により、ここ数年は約90%で推移しており、浄化槽からの切替や接続に際しての経済的負担等の理由から切替が進んでおらず、平均値より低い値となっています。

### 2. 老朽化の状況について

和泉市の公共下水道は、昭和50年度に都市計画決定を行い、昭和52年度から事業を進めていますので、現在、耐用年数が経過している管渠はありません。

なお、令和2年度に公共下水道ストックマネジメント計画を策定しており、令和3年度以降はこの計画に基づき、下水道施設内の点検調査を行います。

## 全体総括

平成30年度に下水道使用料を改定してからは、経営状況が一定改善しました。

しかし、経営の健全性・効率性の指標をみると、これから管渠の布設を行いつつ、今後発生が見込まれる耐用年数を経過した管渠の更新に備えるため、よりいっそう経営の健全化・効率化を図る必要があります。

経営戦略に基づき、計画的かつ合理的な経営を行い、国庫補助金を最大限に活用して未整備区域の下水道整備促進を行いながら、不明水対策による処理経費の節減、及び未水洗化家屋への戸別訪問による啓発を行うなど収入確保に努めていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。